



# きずな

発行元：四国中央市人権教育協議会 〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55  
電話：0896-28-6028 E-mail:jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

21世紀を  
人権の世紀に  
しよう!

## 人権作文

### みんなにありがとう

妻鳥小学校 二年 脇 史華  
(現在四年)



わたしは、今までともだちとすごしてきた中で、心があたたくなくなったことや、うれしいなと思っただことがたくさんあります。

この前、となりのクラスの子が、ありがとうカードを書いてわたしてくれました。お昼のほうでも、とうれしかった時は、びつくりしました。なかつたけれど、ともだちからのありがとうカードで心があたたくなって元気ができました。

とてもうれしかったので、わたしもありがとうカードを書いてみることにしました。やさしくしてくれたともだちや、上の学年の子に書きました。書いた後はとてもいい気持ちになりました。

この前はクラスでとなりのせきのともだちにもありがとうカードを書きました。となりのせきの子も、わたしに書いてくれていて、わたしのすきな色で色をぬってくれました。とてもうれしかったので、わたしもその子にすきな色を聞いて色をぬりました。時間はかかったけれど、できたカードを見ていると、とてもうれしい気持ちになりました。

クラスのみんなもここにこしていています。みんなじぶんにどんなことを書いてくれているのか、

楽しみにしているのかなと思いました。四月から書いてきたカードもたくさんたまっています。それもとてもうれしいなと思いました。

ありがとうと言われると、とてもうれしくなります。後、じぶんがありがとうと言うと気持ちがあつたかくなることもわかりました。わたしはこれから、ありがとうをたくさん言いたいなと思いました。それに、じぶんがしてもらってとてもうれしかったので、ありがとうカードをみんなにおくりたいと思いました。

もう一つ、気をつけたいことがあります。言われていやなことばはつかわないということです。めん鳥小学校には、あつたかことばのキャッチボールということばがあります。みんなが、あつたかことばをつかって話ができるように、気をつけていきたいです。

ときどき、きつい言い方をしてしまつて、けんかになつて、みんなで話し合うことがあります。みんなでおちついて話していると、ともだちの気持ちがよくわかります。けんかをして、話し合った後は、みんなが考えて気をつけようとするので、なかよくあそべます。考えてなおせるところは、みんなのいいところだと思います。みんなでも考えて、いつでもなかよくあそべるようにしていきたいなと思いました。

これからも、ありがとうカードをたくさん書いたり、ありがとうをたくさん言ったりしたいです。みんながやさしい気持ちであつたかことばをつかって、みんなの心があつたかことばでいきたいです。

## 人権ポスター

三島高等学校 一年 松林 まつばやし

佳音さんの作品  
(現在二年)



### 作者からのメッセージ

SNSの普及、さらにコロナ禍の影響もあり、今はインターネットを介したやりとりが当たり前となつていきます。画面越しだから、文字だから、とどこかに心無い言葉を許す気持ちはないか、そういった気持ちから傷つけられた人に対して自分はどうあるべきなのか、見た人にそう考えてもらえるようなポスターであると嬉しいです。私も誰にでも、どんな形であつても、いつも素直であつたか言葉を伝えられる人でありたいと思います。

## 編集室から

先日、「めくら判(盲印)を押す」と言つてしまいました。すぐに同僚から「今の言葉は使つたらダメだよ」と指摘されました。

指摘されてハッとしました。この言葉を聞いて辛いと思う方がいるということを知り、何の違和感もなく使つてしまつていたことに怖さを覚え、私たちの日常には使うことで辛く悲しむ方がいる言葉が多くあります。

- 「めくら判↓確認せずに押印」
- 「舌足らず↓説明が不十分」
- 「おし↓喋れない人」
- 「つんぼ↓耳の聞こえない人」
- 「手短か↓簡潔に」
- 「片手落ち↓不公平な判断」
- 「片ちんば↓足が不自由」
- 「足がない↓移動手段がない」

このような言葉は、以前は当たり前に使われていましたが、人権感覚を磨くことでこのような言葉を使えない自分になることが大切だと思います。何気なく使つた言葉で誰かを傷つけることが無いように、人権感覚を磨き続けようと思います。

(T・H)

家族で回覧して下さい

### 今月の 主な記事

- 1ページ 人権ポスター
- 2~3ページ 教育格差から考える
- 4ページ 人権作文・編集室から